

ききみみミニガイド報告

記: Y

○ 土曜ガイドウォーク

1. 日時: 2020. 9. 12 (土) 10:00~12:10 天気 曇り
2. リーダー: Y ききみみメンバー: 2名
3. 参加者数: 大人 4名 子供 2名 対象者: どなたでも
4. ねらい: 森をゆっくり歩き、樹木や草花とふれあいながら森を散策・観察し、夏の自然を見てもらう。
5. 活動場所: ネイチャーセンター～芝生広場～ソヨゴ広場～トレイル②④～⑥手前の東屋
6. 活動内容: 夏と秋の狭間で残暑の中、頑張っている森の自然、特に樹木などの植物の特徴や生育状況を観察してもらう。

時間・場所	内 容
10:00	ネイチャーセンターに集合 挨拶、準備体操
10:10	・コナラ…ドングリを採取し、ドングリについて説明。
センター前	ドングリの殻斗は帽子でなくパンツだと参加していた子供が説明してくれた。枝と一緒に落ちているドングリにチョッキリムシの産卵跡の穴があるか探した。
芝生広場	・アカマツとクロマツの違い。 マツの球果は熟するのに2年かかる。秋には羽のついた種子が風に乗って飛ばされて行く。マツの葉を2本合わせると断面は円になる。三葉マツ、五葉マツでも葉を合せると円になる。
トレイル①	・ネジキ…樹皮が振じれているからネジキ。 ・ソヨゴ…別名: フクラシバ ライターで葉を炙り、死環と破裂音を確認してもらった。これは種名の判定に役立つ。 ・ヤマナラシ…樹皮にひし形の皮目があり、樹種の識別に役立つ。ひし形の皮目がソロバンの玉のように見えることからソロバンの木ともいう。 ・タラヨウ…インドの多羅樹の葉に字を書いた。同じような木のごろ合わせで多羅葉という。 別名にハガキノキがあり文字が書けることからついた。爪楊枝や小枝で葉の裏面を引き書きしてもらう。住所と名前を書き140円ほどの切手を貼ると郵送してもらえる。 ・カマツカ…材が堅いためカマの柄に使ったのが名前の由来。また枝が丈夫であることから牛の鼻環として使ったので別名「ウシコロシ」ともいう ・シャシャンボ…初冬に白い粉を吹いて青黒色の実が熟す。日本のブルーベリーとも言われていて、食べるとおいしい。 ・ネズミモチ…種子を見ながら、名前の由来の説明。太陽に葉を向けても葉脈がはっきりと見えない。トウネズミモチは葉脈がはっきり見えるので識別ができる。 ・アカメガシワ…名前の由来は、新芽が赤いのでアカメガシワという。葉の葉柄の付け根に赤い蜜腺があり、「赤い眼」のように見えるのが名前の由来とも言われている。蜜腺は蟻を寄せ、蟻に葉を食べる虫を追い払ってもらう。 ・ヌルデの五倍子…葉にできる五倍子は虫が住む家。タンニンが多く含まれているので、黒色の染料になる。かつて江戸時代の頃まで女性の既婚者は五倍子を使って歯を黒く染めた ・ウラジロ(シダ植物)…葉の裏が白いのは、蒸散を防ぐためにロウ質で覆われているため。
12:10	葉はグライダーのように風に乗って飛ぶことを子供たちに体験してもらった。 ⑥近くのあずまやで最後の挨拶 アンケートを書いてもらい、解散。